

心を一つに

北淡中学校野球部監督
紺 社 知 哉



北淡中学校野球部の3年生に嵐 建登くんがいます。今は彼は外野フライ、ゴロのノックをしつかりと捕り、相手に送球します。この前の市大会では、シートノックで外野フライをノーバウンドで4回も捕ることができました。バッティングでは、彼が投手の投げた球を打てるように、全員で「構える」「打て」とタイミングを教えます。この前の練習試合では、1アウト3塁で打席に立ち、打点も稼ぐことができました。野球部の仲間には彼にたくさん心のオアシスをいただいています。だから、みんなは彼が大好きです。

このたび北淡中学校野球部は、横浜スタジアムで行われる全国大会の切符を手にする



ことができました。みんなです。1つの白球を追う、誰一人目標に向かって進めることなく、心を一つにつき進めることができました。そんなとき、いつも必ず彼がその場の中にいます。ピンチのとき、彼が出す一声でどれだけチームは助かったことでしょうか。そして、どれだけ3年生を中心として野球部は彼の心を引き上げ、同じプレーヤーとして頑張らせたことでしょうか。いつも同じ場所と同じ時間、同じ空気を吸ってきた彼を含めた北淡中学校野球部の生徒たちは、共にかげがえのない時間を過ごしました。私は、この北淡中学校野球部の生徒たちを誇りに思います。

輝く人間力

仲間の思いやり、
そして野球に感謝
嵐 由 紀



2年前、中学入学と同時に、自閉症である息子の建登が野球部への入部を希望し、親子二人三脚での部活動がスタートしました。その当時は、周囲の誰もが、無謀な挑戦だと思ったことでしょうか。この時踏み出した一歩が、私たち親子にとって、大きな大きな一歩になったことは、言うまでもありません。

息子が野球をすることはできませんでした。グラウンドの片隅で一人ぼっちとなるのも覚悟の上の入部でしたが、先生や先輩が温かく迎え入れてくださり、息子は孤立するどころか、いつも仲間にもまれて、野球部のゆるキャラであり、ムードメーカー的存在として、仲間と共にかけがえのない時間を過ごしてきました。一生懸命、息子に向き合ってくださいました先生やチームメイトが、息子をサポートし、支え続けてくれたからこそ、夏の暑い日の練習も、冬の厳しいトレニングも乗り越えることができたのです。

3年間でキャッチボールができるようになったら十分：そう思っていた息子は今、仲間と共にノックを受け、バッターボックスに立ち、外野まで飛ばすことを目標に頑張っています。これは毎日、先生や仲間が決して諦めることなく、一つ一つ丁寧に教えてくださったからこその結果です。



私たちが親子は、沢山の出会いに恵まれました。先生、仲間、保護者の皆さん：そして、みんなと出会わせてくれた、息子をここまで成長させてくれた「野球」に、心から感謝しています。

全国大会の準々決勝の最終打席、建登はみんなの応援を背に受け、バッターボックスに立ちました。最高の仲間と最高の夏を過ごすことができました。